

会議録

会 議 名	平成 29 年度 第 2 回 八王子市高齢者あんしん相談センター運営部会
日 時	平成 29 年 7 月 28 日 (金) 午前 10 時 00 分～11 時 30 分
場 所	八王子市役所 本庁舎事務棟 5 階 502 会議室
出 席 委 員	和氣純子委員、小池公江委員、日高絢子委員、山内秀史委員、村上正人委員、大久保孝彦委員、桑野洋子委員、田中泰慶委員、小新井妙子委員
出席臨時委員	斉藤健一委員、堀内進一委員、橘隆二委員、秋山純委員、木野田典保委員、片山正文委員
オブザーバー	(高齢者あんしん相談センター長房) 樋口センター長、(高齢者あんしん相談センター子安) 中村センター長、(高齢者あんしん相談センターもとはち南) 市野瀬センター長、(高齢者あんしん相談センター寺田) 堀間センター長
関 連 部 署 説 明 員	高齢者いきいき課長 元木、介護保険課長 横溝、地域医療政策課長 高橋
説 明 者	社会福祉協議会 尾寄
事 務 局	福祉部長 小峰、高齢者福祉課長 溝部、高齢者福祉主査 半田・辻野、高齢者福祉主事 渡邊
欠 席 者	平川博之委員、吉沢努委員、井出勲委員
公開・非公開 の 別	「公開」
傍 聴 人 の 数	「なし」
次 第	1 開会 2 報告 平成 28 年度高齢者あんしん相談センター収支決算の結果について 3 臨時委員の委嘱について 4 議題 (1) 平成 29 年度第 1 回地域ケア推進会議 (2) 平成 29 年度第 1 回生活支援体制整備推進協議会 5 その他事務連絡 6 閉会
配 付 資 料 名	次第 名簿 1 平成 28 年度高齢者あんしん相談センター収支決算表 2-1 日常生活圏域別計画 2-2 日常生活圏域別計画 (案) パターン 1 2-3 日常生活圏域別計画 (案) パターン 2 2-4 平成 28 年 12 月以降地域ケア会議集計一覧 参考 八王子市地域ケア会議実施報告書 (個票) 3-1 平成 28 年度生活支援コーディネーター (第一層) 活動報告 3-2 平成 28 年度生活支援コーディネーター (第二層) 活動報告 3-3 平成 29 年度生活支援体制整備事業にかかる主な取組みについて 3-4 平成 29 年度生活支援体制整備事業にかかる主な取組みについて (第二層生活支援体制整備) 意見書

1 開会

- 【高齢者福祉課主査】 平成 29 年度第 2 回高齢者あんしん相談センター運営部会を開催する。本日は、地域ケア推進会議と生活支援体制整備推進協議会についても本部会で開催するので、臨時委員を呼んでいる。報告案件終了後、10 時頃から臨時委員が入場し、臨時委員の委嘱を行う。時間までは通常案件を報告する。
- 【高齢者福祉課主査】 本日の高齢者あんしん相談センターオブザーバー参加は、高齢者あんしん相談センター長房の樋口センター長、センター子安の中村センター長、センターもとはち南の市野瀬センター長、センター寺田の堀間センター長になる。
配付資料の確認。
本部会は原則公開とする。今回についても公開としてよろしいか。
- 【全 員】 異議なし。
- 【高齢者福祉課主査】 公開する。それでは、議題に入る。ここからの進行は、本部会運営要綱第 3 条に基づき、会長にお願いする形になる。和氣会長遅れるとの連絡で山内副会長に、よろしく願います。
- 【山内副会長】 本日、平川委員、吉澤委員から欠席の連絡を受けているが、過半数を超えているので、本部会運営要綱第 5 条に基づき、本会議の開催要件は満たしている。
本日、傍聴人はいるか。
- 【高齢者福祉課主査】 傍聴人はいない。

2 報告

- 【報告：平成 28 年度高齢者あんしん相談センター収支決算の結果について】
- 【山内副会長】 それでは、次第に沿って進める。【報告：平成 28 年度高齢者あんしん相談センター収支決算の結果について】事務局から説明をお願いします。
- 【高齢者福祉課長】 平成 28 年度高齢者あんしん相談センター収支決算の結果について資料のとおり説明。収支差し引きは大方黒字。もとはち南と大横は赤字、5 つの包括が赤字、予防で補填して黒字になった。委託料や予防の費用は余ったり不足だったり使う部分は使って、なるべく収支が赤字黒字でないようお願いしている。国が平成 29 年度から、交付金の要綱の改正があった。必要経費は委託料なり予防給付で見ると、二重に黒字になった部分は精算したい。黒字については適正な人員の配置や事業費を使うと指導を行ってきた。それについては今まで通り願います。黒字が出た場合は基本的に精算する。現在各法人と調整している。中身を見ていくと、職員の平均給与 540 万程度、包括のみの収支だと概ね 100 万程度の黒字、予防のみの収支は 400 万程度黒字がでていて、予防に支出がかかっていない。
- 【山内副会長】 内容について、意見・質問等あるか。
- 【田中委員】 精算とはどういう事か。
- 【高齢者福祉課長】 包括の委託料、予防給付で得た収入があり、両方の収入が 5,000 万。掛かった経費が例えば 4,500 万しか掛からなかった場合、500 万は市に返還。法人の持ち出しができるわけではない。
- 【田中委員】 精算とは返還という事か。まずは法人がお金を支出するという事か。
- 【高齢者福祉課長】 はい。
- 【大久保委員】 人員が不足した場合、返還するがここに反映しているのか。
- 【高齢者福祉課主査】 返還分は差し引かれたものを計上している。実際に支払いをした金額。

- 【大久保委員】 精算の方法については各法人と調整を進めているという事だが、具体的にどう進めているのか。
- 【高齢者福祉課長】 まず受託法人連絡会で伝えた。その時は国の要綱が出てなかった。29年度から精算の可能性ありと伝えた。適正な費用に人をつけてもらい、黒字が出ないようにお願いした。28年度の決算ヒアリングの中でも精算についての考え方を示した。
- 【大久保委員】 法人連絡会とヒアリングに参加せず改めての質問で恐縮だが、去年の11月の段階の日付だが、新しい仕組みの導入についてもう少し前倒して案内があってもよかったのかと思う。市は具体的に何年度から開始するか。
- 【高齢者福祉課長】 会計検査院の検査が平成28年度中盤で入った時、厚労省が何らかの策を出すよう通知を发出しており、国の交付金は精算する方向となった。第1回の法人連絡会で伝えなくては、と伝えた。移行期間は平成32年までである。個別協議に応じる仕組みになっていて、東京都と調整しているがまだ具体的には見えていない。各法人には収支のバランスを整えてやってほしい。平成29年度から精算も有り得る。
- 【大久保委員】 現在はまだ流動的。
- 【高齢者福祉課長】 はい。
- 【小新井委員】 包括のみの収支は100万、予防が500万、個別のセンターだとそういう差ができるのは収入と支出の考え方の相違からきているのか。同じような働きをしているのに差が出てくるのか。予防の収入と支出、どのようなものがあるのか。
- 【高齢者福祉課主査】 予防の収入はプラン作成費が主な収入、支出はその為の人件費、事業所運営の一部の事務費。
- 【小新井委員】 支出で差が出るのは法人の考え方の違いか。
- 【高齢者福祉課主査】 それが大きいと思う。
- 【小新井委員】 本日寺田が来ているので伺いたい。平均より多い。
- 【高齢者福祉課長】 予防の収支でプラス700万、収入と支出のバランスの理由を。
- 【堀間センター長】 予防の人員配置を少なくしている。
- 【小新井委員】 それでカバーできているのか。
- 【堀間センター長】 兼務の部分と委託とそれで賄っている。
- 【小新井委員】 努力できているという事ですね、それで精算だとどうなのか。
- 【田中委員】 左入の収支がかなり増加している、1,000万以上。年度によってどうしてか、昨年と違って赤字が減っているが、1年でこんなに改善出来るものなのか。
- 【高齢者福祉課主査】 左入は平成28年度人事異動が多く、人件費が高い職員が退職や異動し、そこに新人が配置され、人件費が大幅に落ちた。退職間近と新人との差は大きい為影響が出た。
- 【田中委員】 サービスに差が出てくる。にも関わらず人件費は同じように払うのか。
- 【高齢者福祉課主査】 今現在はその形となる。
- 【田中委員】 釈然としない。
- 【高齢者福祉課主査】 今後の見直しの要素となる。
- 【田中委員】 要因の分析をして、数字だけ並べず資料を出してほしい。大横が加わって、昨年度は2,630万が今年度8,400万、どうしてこうなるのか、普通では考えられない。
- 【高齢者福祉課長】 経年経過がわかる資料も考える。
- 【山内副会長】 変化が分かる資料を添付してもらおうという事で田中委員よろしいか。

- 【田中委員】 はい。
- 【山内副会長】 ほかに質問等はないか。それでは、【報告：平成28年度高齢者あんしん相談センター収支決算の結果について】は以上になる。よろしいか。
- 3 臨時委員委嘱について
- 【山内副会長】 それでは、ここからの審議については臨時委員にも参加いただく。発令については事務局より願います。
- 【高齢者福祉課主査】 前回の会議で決定したとおり、臨時委員を呼ぶ事になった。本日、臨時委員という事で、6名の方にお越しいただいている。本日、社会福祉法人八王子市社会福祉協議会からの選出の「井出勲（いでいさお）」委員については、都合により欠席の連絡を受けている。それでは、社会福祉審議会委員の辞令書及び本部会臨時委員の指名書の交付を、福祉部長より行う。臨時委員の皆様、起立願う。
- それでは、ここで、委員に就任された方から、自己紹介を簡潔に一言ずつ願います。
- 【斉藤委員】 高尾センター長の斉藤と申す。よろしく願います。
- 【堀内委員】 NPO法人八王子市民活動協議会から来た。
- 【橋委員】 八王子薬剤師会会長橋。よろしく願います。
- 【秋山委員】 東京都生協連の秋山。地域貢献の活動も進めているのでよろしく願います。
- 【木野田委員】 東京都南多摩保健医療圏地域リハビリテーションセンター室長木野田。
- 【片山委員】 東京都柔道整復師会南多摩支部片山。よろしく願います。
- 【高齢者福祉課主査】 和氣会長が到着したのでここからは、議事進行を和氣会長へ願います。
- 4 議題
- 【議題（1）：平成29年度第1回地域ケア推進会議】
- 【和氣会長】 それでは、次第に沿って進める。【議題（1）：平成29年度第1回地域ケア推進会議】事務局から説明する。
- 【高齢者福祉課長】 手元に、事前送付資料2-1、2-2、2-3と、参考資料として各センターが実施した地域ケア会議の報告書、そして本日配布資料2-4を用意願う。2-4は報告書を高齢者福祉課主査で集約したもの。報告書は74枚渡し、平成28年12月から現在までの集計済分。個々の件については説明を省略する。包括順の日付順で報告書とナンバーが連動、平成28、29年度分が前半後半。ナンバー、開催日、センター名、区分。区分は個別ケース会議、地域ケア個別会議の大きく2つに区分は分かれている。機能はそれぞれにまたがる。双方くっきり分かれるものではないが、このような機能があるという事を記載。テーマは認知症、ネットワーク作り等。前回意見いただいたので終了した案件も今回は載せている。
- 【和氣会長】 内容について、意見・質問等あるか。
- 【田中委員】 色々な地域ケア会議を行っているが、問題や課題になっているのは個別ケースを見てもよくわからなかった。何が問題になっているのか。今後どう進めていけばいいのか教えてほしい。
- 【高齢者福祉課長】 前日も議論いただいたが、共通事項を見つけ、政策課題に繋げていくのが難しいとも思っている。まずは圏域ごとの課題をまとめてみようかと試みている。地域ケア会議のマニュアル作成、会議方法も工夫しながらまとめ上げていく予定。

- 【 田 中 委 員 】 次なる圏域をどうするか、それぞれ地域性があり、圏域ごとの課題があり、整理をしていく必要があると思う。
- 【 村 上 委 員 】 別の会議だが日常生活圏域を抜本的に見直すという発言があったと思う。
- 【高年齢いきいき課長】 圏域の議論は出ていて、抜本的には違うかと思うが、総合計画の中で議論は出そうだが、ここ数年で劇的に変化するというわけではなく、少しずつすりよせていく。
- 【 和 気 会 長 】 地域ケア会議の取り組みが始まったばかりで、課題を検討しているので、推進会議でもフィードバックできれば、計画に結びつけるのも了解できる。圏域の中でどういう課題が多かったなど、優先順位をつけるための市の整理はあるのか。
- 【高年齢福祉課長】 統計的な処理でテーマごとに一覧にして提示した事もある。全市的な課題となる為テクニックも必要となる。
- 【 和 気 会 長 】 全市的に取り組まなければいけないもの、地域の中で解決できるものと整理すべき。推進会議での議論が難しいかと。全市的に取り組む課題、緊急を要する課題、長い目で議論する事、1年以内に解決できるもの等、具体的な議論に挙がる課題の整理、それを考えるのが委員なので、何か案を考える必要がある。
- 【 堀 内 委 員 】 生活支援コーディネーターの協議体も地域課題を拾い出すのは共通課題、そういうところとの連携、情報交換などの施策もいかがか。
- 【高年齢福祉課長】 地域ケア会議では協議体と共同で開催しているケースもある。
- 【 斉 藤 委 員 】 第2層生活支援コーディネーター及び第1層と共同しながら地域課題に直面し、課題整備を行うなど取り組みは開始している。
- 【高年齢福祉課長】 第1層の協議体の会議体機能も本部会で有しており、共通した認識でいる。この後の日常生活別圏域のところにも生活支援協議体の欄を設け同じように見せていく。
- 【 和 気 会 長 】 計画の中に個別課題を盛り込み、これをどう解決していくか、予定している取組というところに入るのか。解決の方向性というか。
- 【高年齢福祉課長】 問題提起レベル。現段階で書けるところまで書き、これを基に今後どうすべきかの議論が展開できるようにしていく。
- 【 和 気 会 長 】 地域ケア会議は地域の中で解決できない課題は市で検討し推進会議であがるものと、地域の中で資源を使いながら解決できうるものもあると思う。報告書の中に現れてくると思うが。
- 【 斉 藤 委 員 】 個別課題や地域課題の気づきなど包括が発案するというよりも、地域の暮らしの中で発見されたものがでて、担当者が必要性を探り地域課題を地域の中で別の方策を生み、結果計画して100%取り組まれたものをここで挙げている。ただし明確に政策提言的なものとして精査はまだできていない。
- 【 和 気 会 長 】 整備も含めて地域ケア会議のプロセスでマニュアルも作成していけば推進会議も効率的に議論できるのではと思う。報告書の方は以上となる。
- 【高年齢福祉課長】 日常生活圏域別計画について第6期で初めて取り組みをスタートした。第7期については、電子化し、早いサイクルで更新していく。圏域にある社会資源がどのようなものがあるのか計画の中に残していきたいのが趣旨。本冊からは分離して電子媒体と共に紙媒体もある程度つくる。地域ケア会議・生活支援協議体で議論したものを、ありのままに計画に落とし更なる圏域の傾向を見て次の議論につなげていく。

- 【高齢者福祉課主査】 内容を説明する。資料 2-1 について、日常生活圏域とは何かを記載している。2 枚目は計画の位置付けや圏域のデータを載せる予定。3 枚目、圏域の名称、地区、面積、人口、人口密度等基礎データ。11 番以降が高齢者の状況、一人暮らしの人数や世帯数、要介護認定や要支援認定等、18 番以降が町会や民生委員シニアクラブ等社会資源の数を示すものである。圏域により町会の加入率も載せる予定。圏域地図は、公共交通機関と公共施設、小中学校を載せる。(3) は地理的な状況について、(4) は健康と暮らしの調査の圏域毎の状況、(5) は圏域の状況、課題、取組のあるもの、今後予定しているもの。医療施設や介護施設のサービスを圏域ごとに掲載するか思案中。(6) については吹き出しの部分を見ていただきたい。情報は変化する為、WEB 媒体で掲載したいので、紙媒体は文言のみ。旭町を例に載せた。課題やニーズ調査から現在の取組を掲載。パターン 1 とパターン 2 がある。1 は医療施設や介護保険サービスを載せた場合、2 は言葉としてサイトに誘導するもの、どちらが良いかも含めて意見をいただきたい。
- 【和氣会長】 内容について、意見・質問等あるか。
- 【斉藤委員】 (6) は本冊には不要だと思う。市民からみても他の社会資源サービスとは異なる。地域ごとのサービス提供のため、0 件という圏域もある。載せる効果は不明なので本冊への掲載は不要と考える。
- 【和氣会長】 ポータルサイトに誘導でよいということか。
- 【山内副会長】 私もそう思う、医療と介護の連携ガイドにも同じ内容が載っている。
- 【介護保険課長】 もっと詳しく出る。
- 【山内副会長】 では本冊には不要かと。
- 【和氣会長】 別冊にするとともに市のホームページから見られるようになるのか。
- 【高齢者福祉課主査】 市のホームページから市が構築する外部サイトへ誘導する。計画も同様に載せる。
- 【和氣会長】 データは変わるので計画としては 3 年間同じものか。
- 【高齢者福祉課主査】 圏域の状況や取組みについても 3 年固定でなく、その時その時の状況に合わせて変わっていく。年次もしくは一定のタイミングで更新していく。
- 【小新井委員】 市民の立場から市のホームページを見ることが可能か。市が管理して更新なら包括に負担がかからないのか。
- 【高齢者福祉課主査】 基礎的データは市で更新。地域の課題は包括支援センター、協議体、地域の方の力を借りて取組みが進むか掲載していく。
- 【小新井委員】 リアルタイムではなくても定期的なら、助かる。
- 【堀内委員】 個別データがでてくるのか。
- 【高齢者福祉課主査】 構築予定のポータルサイトで情報を見られるようにする。一表の形でいけるのか、地図からいけるのか、考えていく。
- 【堀内委員】 日常生活圏の役割を考えると、生き生きハンドブックで様々な地域の活動団体を掲載している、我々はとんでいけるが、このような団体も見られるのか。
- 【高齢者福祉課主査】 構築予定サイトで協力いただくようになっている。
- 【村上委員】 夜間預かるデイサービスや認知症のレベル毎で通える歯医者なども載せてもらいたい。センターでもっていると思うが。
- 【高齢者福祉課主査】 サイト構築の際に考えていく。

- 【介護保険課長】 各医療機関、介護支援事業所などからある程度詳細なデータもらっている。調査していない部分もあるのでサイトの見せ方で示せればと思う。
- 【和氣会長】 サイトはこの会議でか。
- 【高齢者福祉課長】 はい。
- 【橋委員】 サイトを見る年齢も疑問だが、紙媒体しか見られない方も更新されていくのか。
- 【高齢者福祉課主査】 そもそもサイトが見られない人には直接的に新しい情報をとというのは難しいかも知れない。支援している方や、包括、市も含めて情報提供できればと思う。
- 【小新井委員】 自治会単位でリンク、自治会組織をしっかりと使って浸透させてもらえれば。
- 【高齢者福祉課長】 生活支援コーディネーターの役割の1つかと思う。相互利用でも広く周知が必要。町会自治会については訪問B、総合事業でも、積極的にPRしていきたい。
- 【秋山委員】 それぞれの会議体では、オーソライズされている。住民から見た時、圏域課題をどう課題解決していくのか、旭町の例だが坂の多い地域での移動手段など、議論も期待もされてくると思う。ここに掲載されたものが課題であり、議論の仕方、今後のつなげ方はどうなのか。
- 【高齢者福祉課長】 課題を挙げただけでは進まないで、地域ケア会議のやり方など発展できるように進めていきたい。
- 【和氣会長】 各圏域で継続的に会議を深めて、計画の推進状況を会議でチェックする流れか。
- 【高齢者福祉課長】 はい。
- 【堀内委員】 紙ベースで配るものもあるのか。
- 【高齢者福祉課長】 サイトベースだが必要に応じて印刷する。
- 【堀内委員】 サイトを見に行く行為は生活支援コーディネーターが役割を担うのか。
- 【高齢者福祉課長】 対人支援ではなく、使い方を教えるのは本流とは外れると思う。
- 【堀内委員】 各圏域に一人だが考えはあるのか。我々はハンドターミナルを購入し近くの方に手伝いしてもらえればと聞こうと思っているが、そのような考えはないのか。
- 【和氣会長】 自治会やサロン、デイサービスなどで使い方や講習など行うのか。市であるなら貸し出しか。
- 【堀内委員】 8台買った、心配がある。地域サロンでもやりたい。
- 【和氣会長】 タブレットは何台かあったほうがよいのでは。説明時に見せながら使い方を習って頂く機会にもなるかもしれない。
- 【斉藤委員】 紙媒体、電子媒体等様々な方法でより多くの方に見てもらおう、高齢者のスマホユーザーも増えてきた。スマホでも見られるのか。
- 【高齢者福祉課主査】 PC、タブレット、スマホ全てで見られるように構築中。
- 【田中委員】 数値の件だが、一人暮らし高齢者数、意味が分からない。
- 【高齢者福祉課主査】 市ホームページで人口は3か月に1回公開されているが、最新の情報を見せる場合、時点がずれてしまう。数値掲載の際はいつ時点のものか示す。
- 【田中委員】 一人暮らし高齢者の昼食交流会の人員とここは合わせてなのか。
- 【小池委員】 5月半ば頃に提出、昼食交流会は大体10月にその名簿で出欠を聞いている。
- 【高齢者福祉課主査】 一人暮らし高齢者の数は民生委員に調査してもらった数がここに載る。
- 【田中委員】 自治会・町内会、自分の自治会がどこの生活圏域に入るのかこれだけでは分からない。分かる方法はないのか。

- 【高齢者福祉課主査】 町をまたがる町会はある、協働推進課の持っている情報では、サイトなどでお知らせできるものを考えているが、どの圏域にどの町会が入っているか作成できれば。
- 【田中委員】 ネットワークづくりに関わってくるので、よろしく。
- 【木野田委員】 サイト上で課題を出した時、解決していく必要がある。サイト上に意見を吸い上げるものを作ったり、意見を聞くとすごく大変になると思うが。
- 【高齢者福祉課長】 今はない。設計が終わった段階、今後の課題として認識する。
- 【和氣会長】 少なくとも問い合わせは、という形ならできるか。
- 【高齢者福祉課長】 はい。
- 【和氣会長】 地域の住民が議論する所であがったものを市や会議にあげてもらいたい事もあるか。
- 【高齢者福祉課長】 そのような形が望ましいと思う。
- 【和氣会長】 課題については圏域の方々と協議したうえで載せるのか市が書くのか。
- 【高齢者福祉課主査】 現在掲載中のものは報告書を基に市が作成。今後、課題については市の方でまとめるのか、もう少し生の声で出すのか、運用する中で考えていきたい。
- 【和氣会長】 市が原案作成となるが、計画はパブリックコメントなどでフィードバックして修正し、地域に戻し意見を聞くプロセスとなるのか。
- 【高齢者福祉課主査】 各包括に確認してもらいたい形はとる。
- 【和氣会長】 ほかに質問等はないか。それでは、【議題（1）：平成29年度第1回地域ケア推進会議】は以上になる。よろしいか。
- 【議題（2）：平成29年度第1回生活支援体制整備推進協議会】
- 【和氣会長】 続いて【議題（2）：平成29年度第1回生活支援体制整備推進協議会】になる。事務局より説明をお願いします。
- 【高齢者福祉課長】 平成28年度の実績、平成29年度の事業計画の説明。配置の経緯については第2層のコーディネーターは平成28年度から6名の配置、地域福祉推進拠点の中でコミュニティソーシャルワーカーと兼務で考えていたが、業務の整理が難しいという事でボラセンに6名いて、地域に出ている。第2層のコーディネーターを紹介する。
- 6圏域のうち5圏域の担当者の挨拶（中央圏域は本日欠席）。
- 【高齢者福祉課主査】 資料3-1について、全体的に資料のとおり説明。八王子市の学園都市としての強みを生かし、大学との連携事業を多く進めている。首都大学東京とのみなみおさまカフェの開設、帝京大学との地域向けボディーコンディショニング教室、法政大学とのグリーンヒル寺田の活性化事業おひさま広場の開設、東京造形代大学とのPR動画の作成。地域の活動助け合い応援講座（担い手養成研修）開催。地域ケア会議との連携。総合事業の多様なサービス評価・検証事業。第2層生活支援コーディネーターの配置。普及・啓発のシンポジウムの開催。おとうさんおかえりなさいパーティーへの出席。関係機関との連携、団体との調整、関係作りからの地域とのつながり。地域課題の検証を進めていく。
- 【社会福祉協議会】 市民力支援課と支え合い推進課の2つに分けた。委員の井出が本日欠席のため説明する。資料の3-2について、1平成28年度活動目標について、5つそのまま説明。3ほぼ資料のとおり。
- 【高齢者福祉課長】 平成29年度を取組と、PR動画も続けて紹介する。

- 【高齢者福祉課主査】 平成29年度の取組について、資料のとおり。
- 【社会福祉協議会】 2層の平成29年度の取組について、資料3-4のとおり。
最後に片倉台福祉ネットワークの動画（3分）紹介。
- 【和氣会長】 只今、説明があった内容について、意見・質問等あるようなら発言をお願いします。
- 【村上委員】 6名というのは、各生活圈域に一人ずつ配置という目標をたてては。
- 【福祉部長】 将来的には各地域に一人、だんだん増やしていくという方向性。
- 【村上委員】 括弧書きで包括名を入れておいてほしい。
- 【高齢者福祉課長】 はい。
- 【片山委員】 ボランティアは八王子市全体に広がっているのか。全地域に片倉台福祉ネットワークのようなものがあるのか。必要な時はどこに連絡すればいいのか。
- 【社会福祉協議会】 10数箇所、点在している。全域的ではない。組織を作る事も役割。高齢者向けにはコーディネーターの役割でもある。
- 【和氣会長】 片倉台だけなのか。他に連絡したい時はどうするのか。全市的にボランティアをやりたい場合は社協に連絡か。今から入れられるか、動画が完成しているので今更だが。
- 【社会福祉協議会】 そのとおり。今ある組織で市民の皆様も気軽に見られればと紹介。
- 【高齢者福祉課主査】 住民主体サービスの評価検討事業、市全体を通して検討していきたい。
- 【橋委員】 どこで動画は閲覧可能か。
- 【高齢者福祉課主査】 市HPでは動画に制約があるので情報管理部門と調整していく。
- 【高齢者福祉課主査】 補足。資料3-3の5（1）の概要に動画の今後の展開あり。平成28年度片倉台福祉ネットワーク、今年度上半期めじろむつみクラブ、長寿社会を考える会、絹が丘1丁目ネットワーク。後期にも3団体ほどの予定。資料3-3の協力団体一覧についても新たな団体も順次PR動画の作成を行っていく予定。
- 【和氣会長】 ほかに質問等はないか。それでは、【議題（2）：平成29年度第1回生活支援体制整備推進協議会】は以上になる。よろしいか。
- 5 その他事務連絡
- 【和氣会長】 続いて、その他事務連絡として何かあるようなら事務局より説明をお願いします。
- 【高齢者福祉課主査】 特になし。
- 【和氣会長】 その他、委員から何かあるか。ないようなら、本日の議題はすべて終了になる。議事の進行は終了したので、進行を事務局に戻させていただく。
- 6 閉会
- 【高齢者福祉課主査】 本日の会議の中で、言い忘れた点、言い足りなかった点があるようなら、配布済の意見書にて、8月4日金曜日までに意見を寄せていただきたい。なお、次回の会議は10月13日金曜日9時30分から、事務棟702会議室で予定している。臨時委員については、今年度第2回目の地域ケア推進会議及び生活支援体制整備推進協議会を今後予定しているので、日程等については、改めてお知らせする。それでは、以上をもって、本日の会議は終了させていただく。

会議署名人 _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 署名